



大上地区社協の最近の活動 その2

3月3日(土) 市の精神保健福祉事業に参加

綾瀬市と大上地区社協など市内14地区社協や関係する28の団体で構成している綾瀬市精神保健福祉地域交流事業実行委員会は、3月3日(土)の午後1時から3時間にわたって文化会館小ホールを会場として“思春期セミナー”を開催しました。

当日は、初めに神奈川県精神障害者家族会連合会の市川会長と、実行委員長である大上地区社協の吉澤理事が挨拶、そして笠間市長も駆けつけて挨拶があった後、第一部は精神科医で横浜カメリアホスピタル院長の宮田雄吾氏による「知ってほしい思春期の“こころの病”」と題して講演。続いて第二部は2名の当事者体験発表があり、最後に市内貴志園のエイサークラブの12名による沖縄の民族舞踊「エイサー」の演技に、出席した260名の皆さんはそれぞれ熱心に聞き見入っていました。

大上地区社協からは、同委員会の委員として吉澤理事が参加しており、また当日は市ノ澤会長を始め役員・会員が多数出席しました。



実行委員長として挨拶する吉澤理事



宮田雄吾院長の講演

3月18日(日)「子どもの防犯」の研修会を自治会と共催

大上地区社協は、大上自治会と共催して「子どもの防犯」に関する研修会を3月18日(日)の午前10時から2時間にわたって開催しました。

当日は大上会館を会場として、講師に北ノ台中学校の鈴木教頭先生を招き、自治会や地区社協を始め民生・児童委員、青少年健全育成会のメンバー、そして市の安全安心課の駒井課長が特別参加されるなど40名が出席しました。

講師の鈴木教頭は、神奈川県警で3年間にわたって子どもの防犯について研修された体験をもとに、子どもとの関わり方や防犯について講義され、続いて出席者との意見交換がなされた。

結論は、子どもの防犯は家庭が基本、そして学校、地域の住民みんなで見守ることが必要である事を再認識した研修会でした。



講義される鈴木教頭



熱心に聞き入る出席者